

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
出生・発達分科会（第26期・第3回）
議事要旨**

1. 日 時 令和6年7月2日（火）18:00～19:00

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、藤井知行（以上、会員）

米村滋人、石崎優子、島藺進、船曳康子、水口 雅、水野紀子、武藤香織（以上、連携
会員）

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

藤井知行会員より、「出生前遺伝学的検査・着床前遺伝学的検査と生命倫理」と題して、NIPT と PGT について詳しく解説していただいた。NIPT については「出生前遺伝学的検査について」「生命倫理にかかわる議論」「NIPT の国内での導入と現状」の項目で、どのような検査か、またその歴史・現状について解説していただいた。その後、PGT について「PGT のこれまでと現状」「PGT-M をとりまく議論」「PGT-A/SR の生命倫理的課題」の項目で説明していただいた。特に PGT の社会的な議論について歴史と現状をお話しいただいたが、前期の日本学術会議において藤井会員を中心として「倫理的課題を有する着床前遺伝学的検査（PGT）の適切な運用のための公的プラットフォームの設置—遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査（PGT-M）への対応を中心に—」の提言がなされたことの報告があり、その内容について詳しく解説していただいた。その後、参加者から活発な質疑応答が行われた。この分科会の今後の議論に重要な示唆を与える内容となった。

以上